

■手島堵庵 心学者。梅岩より保守的で、封建為政者の歓迎するところとなり、門徒数千。

てじまとあん

御蔭参流行・1718= 京都生れ。富商上河蓋岳の子、母は上河氏の娘。

・・・・・・1727= 9歳：

享保大飢饉・1732=14歳：

昆陽蕃諸考・1735=17歳：_石田梅岩に師事，

悪鋳再開・・1736=18歳：

徳川吉宗隠居1745=27歳：

徳川吉宗没・1751=33歳：

山脇東洋解剖1754=36歳：

大岡忠光没・1760=42歳：

・・・・・・1762=44歳：この頃、*家業を長男の建(和庵)に譲り、京都富小路三条下(朝倉町)に居を定め、五楽舎と称して、心学の講説を始め、

・・・・・・1763=45歳：

_師の学問の普及・宣伝に尽力。

_同門の先輩があいついで他界したこともあって名声は、大いにあがり、

_門弟の増加にしたがって、

田沼意次老中1772=54歳：

大原騒動・・1773=55歳：_五条東洞院に修正舎、

源内獄中死・1779=61歳：_西陣に時習舎を、

・・・・・・1781=63歳：

天明大飢饉始1782=64歳：*河原町三条に明倫舎を設立、心学の普及と統制の総本山とした。

また「社中巡講心得定書」「知二本心者可守之大略」など多くの定書を制定、講読・道話に用いるべき書物にも枠をはめたため、以後、その正統と目される者の間からは、心学思想の新たな発展は困難となる。保守的傾向は梅岩より強く、封建為政者の歓迎するところとなった。

田沼意次失脚1786=68歳：

_没した。
門下には中沢道二・上河洪水・布施松翁・脇坂義堂らがあらわれた。